

第9期（2025年度）第1回サイエンスカフェ報告 －「サイエンスカフェ in 仙台」－

開催日時 2025年11月22日 13:00～15:00

開催会場 東北大学青葉山新キャンパス（青葉山 commons）

参加者 仙台市周辺地域の中学、高校生等 24 名

今回は、東北大学・東京エレクトロン(株)、仙台市教育委員会の協力を得て、以下のプログラムで「サイエンスカフェ in 仙台」を開催しました。

***** プログラム *****

● 13:00-14:00 参加生徒が東北大学の学生とともに会場準備

● 14:00-15:00 大隅理事長との懇談会（質問会）／記念撮影・解散

● 中高生からの主な質問と大隅理事長のコメント

質問 実験で失敗したとき、どう立ち直ればよいですか？

大隅：「失敗とは何か」を考えてみてください。科学には失敗がつきものです。うまくいかなかったときに、そこから何を読み取るかが大切です。受験は“正解へ早く到達する力”が求められますが、科学は“答えのないものに挑むこと”です。教科書は“わかったこと”が書いてあるだけ。

『まだこんなにわからないことがある』と思えることこそ研究の入り口です。」

質問 いろいろな教科を全部勉強する意味はありますか？

大隅：「私の経験では、幅広く学ぶことはとても重要です。数学が“役に立つのか”と聞かれることがありますが、数学は論理的な考え方を鍛える訓練でもあり、研究に必ず生きます。苦手な教科にもぜひ挑戦してみてください。」



質問 自分の考えを人に伝えるには、どうすればよいですか？

大隅：「たくさんの人、特に自分と違う分野の人と交わることが大切です。中学・高校・大学と進むにつれ、人の輪が小さくなりがちですが、その輪を意識的に広げる努力をしてみてください。さまざまな視点に触れることが、自分の考えを磨く力になります。」

● 生徒へのメッセージ

最後に大隅理事長は、生徒の皆さんに次のように語りました。

大隅：「スポーツの世界では、海外で活躍する人が増えているように、科学の世界でもそうあってほしい。自分の疑問がある瞬間に解ける、その喜びこそが科学の醍醐味です。そのためには粘り強さが必要ですが、どこかで“楽しい”と思える成功体験をぜひしてほしい。教科書だけでなく自然に親しみ、自然の中から不思議を見つけてください。地球規模の課題の解決にも、自然を理解する姿勢が欠かせません。」

今回のサイエンスカフェでは当日、特定非営利活動法人 natural science 代表・大草芳江様がモデレーターを務めてくださいました。深く感謝申し上げます。

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団